

新年の日本経済と金融・為替市場展望

大和総研チーフエコノミスト
熊谷亮丸

- *復興需要下支えから輸出回復へ
- *アメリカの景気は着実に上向く
- *「期待」を変えたベースマネー拡大
- *円安はまだのりしろがある
- *リスクシナリオにも警戒が必要
- *中国は短期楽観、中長期悲観
- *日本経済と四つの海外リスク
- *第一の矢は合格、問題は財政規律
- *日本の技術力に自信を持って
- *まず売り上げ増、そして賃金へ



浅野 開会いたします。（拍手）今日は、熊谷さんにこちらへは初めておいでいただきました。

大和総研で活躍されて、最近、テレビをつけると、やたらに熊谷さんの顔が出てくるんですね。大活躍されておられます。お名前をレジユメに書いてありますが、読める方はまずおられないと思うんですね。読めた方がおられたら賞品でも差し上げようかなと思いますけれども。（笑）

ともあれ、今、マクロ経済とマーケットは面白いところへ来ていますので、これからどっちへどう行くか。景況もそうですけれども、為替や株価や金利がどういうふうに動くかというのは非常に興味があるところで、いい質問を出していたら、熊谷さんを立ち往生させていた

だきたいなど。では、熊谷さん、よろしくお願いたします。（拍手）

熊谷 ただいまご紹介にあずかりました、大和総研チーフエコノミストの熊谷でございます。本日は、本当に伝統のある会合にお招きいただきました。心より御礼申し上げます。少しでも皆様のお役に立つような話をさせていたただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今日は五つぐらいの柱でお話をさせていただきます。まず一点目ですけれども、日本経済は今年の3月をピークにして景気後退に入ってきた。ただ、昨日出た鉱工業生産なども非常にしつかりした内容になってきておりますので、おそらく昨年の11月を底にして、景気は底入れ